

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 1日

事業所名 児童デイサービス ぽぷらきらら

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	2	・必要時以外はペットを片付けている。 ・プライベートな空間がとれるようにしている。	・小さい子が走り回ってけがをしそうな時があるので、走る子に注意をした。 ・収納の仕方や保管場所を見直す。
	2 職員の配置数は適切である	4	2	必要に応じて人員配置をし、手のかかる子は人員を増やしている。	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	4	2	・更衣室と生活のスペースを分け、バリアフリー化している。 ・必要なもの以外は片づけてスペースを確保した。 ・目で見てわかるようにイラストを使った物を壁に貼っている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6		・手の触れる場所は除菌をした ・使用頻度の高いものは取り出しやすい場所においた	使用したものは、可能な限り使用後すぐに元の場所に片付ける。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	2	・目標に対しての振り返りを職員間でし、次回の支援につなげている。 ・資料等を作って、読んで理解している。	・休みの職員にももれがないようミーティングノートを活用し、確認印をおす。 ・ミーティングで意見交換をする。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6		毎年アンケートをとり、個々に応じた提供に努めている	評価表を常に念頭に置き、業務改善につなげたい。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6	0	おたよりやホームページに掲載し公表している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	2	リモートでの研修に参加している。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	1	アセスメントを元にスタッフでミーティングを行い作成している。	
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	2	アセスメントツールを見て適応行動の状況を見比べている。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	4	2	その都度支援の内容を見直し、利用者に合った支援を提供している。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0	支援計画がいつでも確認できるようにしている。	チームで共有しフォローし合えるようにする。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1	チームのミーティングで作成している	ミーティングに参加できない方の意見も入れる
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	1	マンネリ化しないよう時節の活動を取り入れている。	新しい案を取り入れていく。
16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4	2	集団活動をして、他の時間に個別活動を行うようにしている。		

適切な支援の提供	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0	毎朝、ミーティングし、分担の確認等行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	4	退勤時間にばらつきがあるため、気付いた点をミーティングノートに記入し共有している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	1	記録は抜け落ちがないようチェックし、改善につなげている。
	20	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	6	0	定期的に見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	1	スタッフと子どもの様子を共有して管理者が行っている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	1	5	必要のある時には連絡を取り合う。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			現在、該当児無し。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			現在、該当児無し。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	4	相談支援員を通じて間接的に情報を共有している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	2	4	相談支援員を通じて情報を共有している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	4	保護者を通じて助言を共有している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	0	6	今年度は控えた。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	6	今年度は控えた。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	送迎時等にはその日あった事や変化の様子などを話している
保護者	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	4	必要に応じて支援していく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0	契約時に行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	その時の子どもの課題等親御さんと相談しながら計画を作成している。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1	モニタリング時に合わせて行っている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	6	要望があれば前向きに検討する。

への説明責任等	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	2	相談を受けたことには、スタッフ間で相談、返答し迅速に対応している	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	ご利用者に毎月おたより、行事予定を配布し活動の様子をお伝えしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0	個人情報ほ外部の目や耳に触れないように配慮している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	言葉を介しない利用者には絵やマークを貼ったり、ジェスチャーや指さしなどを用いた	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	2	地域の方に絵本のボランティアに入ってもらっている。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	2	4	マニュアルを作成してある	更新したものを策定していき、職員や保護者に周知していきたい
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0	年2回避難訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	1	児童情報等で確認している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6	0	食物アレルギーのある利用者には対応している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	3	ヒヤリハットを活用している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4	2	社内研修を行っている。疑問に感じたことは相談し合っている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	4	2	身体拘束検討委員会の中で必要性を話し合っている。	